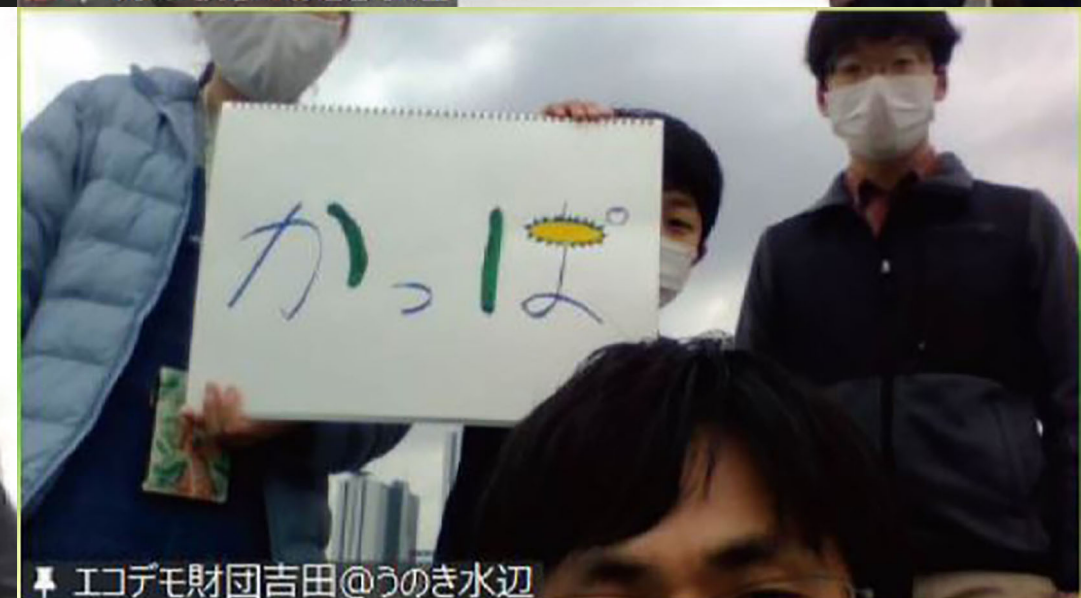


多摩川オンライン・シンポジウム：第1回3月春・2021.3.20



未来の河童に
おくる多摩川



主催：一般財団法人エコロジカル・デモクラシー財団

■ 企画背景

私たちエコデモ財団では、2019年度の東急財団・学術研究部門の研究助成「多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究」をいただき、多摩川の水辺の活動と、地域や子どもたちとのつながりの形を明らかにし、それらにより作られている水辺や多摩川の価値を活動されている方々と一緒に同定することを目的として調査・研究を行ってきました。

■ 趣旨：

Covid-19の感染拡大により人と人、人と自然・社会との新たな関係構築が問われる中、多摩川の水辺の活動もその参加の形を変えながら水辺や多摩川の価値を新たに生み出していると考えます。そこでオンラインで**同時多角的**に**多摩川の風景**を共有しながら**多摩川と水辺の活動の価値**を確かめることを目的として、今回のシンポジウムを企画いたしました。

■ 現地中継先：8団体

- ① 福生水辺の楽校（活動メンバー1名・学生2名）
 - ② あきしま水辺の楽校（活動メンバー9名・学生2名）
 - ③ かわさき水辺の楽校（活動メンバー4名・学生1名）
 - ④ 狛江水辺の楽校（活動メンバー2名・学生2名）
 - ⑤ きぬたま遊び村（活動メンバー9名・学生2名）
 - ⑥ うのき水辺の楽校（活動メンバー6名・学生2名）
 - ⑦ だいし水辺の楽校（活動メンバー5名・学生2名）
 - ⑧ 羽田水辺の楽校（活動メンバー2名・学生2名）
- ※中継本部・東工大（スタッフ1名）



■ プログラム

1. はじめに：中継先のご紹介

- ・現地8か所の接続確認と自己紹介
- ・本シンポジウムの概要説明

2. あいさつ：

- ・一般財団法人エコロジカル・デモクラシー財団・代表理事 土肥真人より趣旨説明
- ・公益財団法人東急財団・事務局長 図師真吾さまよりご挨拶

3. アートワーク解説

- ・アートワーク解説（目的、方法、後ほど作品紹介）
- ・アートワークの解説を兼ねて、メッセージづくり記念撮影

4. 現地インタビュー：下流から

- ◆コロナ禍の現状を現地風景を交えてリレー中継

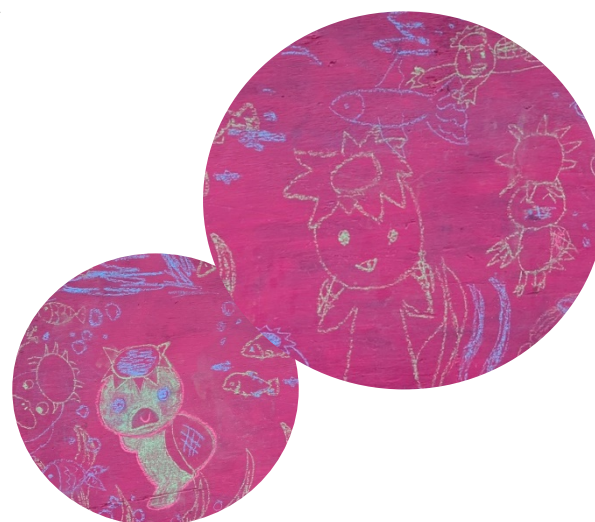
- (1) 最近の活動・課題
- (2) 子どもたちの様子
- (3) 地域とのつながり
- (4) 子どもたちに託す未来

5. アートワーク紹介：上流から

- ◆アート作品紹介（タイトルとメッセージを紹介）
- ・アートワークを全体で眺める
- (1) 一覧紹介、(2) 地図上で確認—全体メッセージ

6. おわりに：参加者からご感想

- ・参加者からご感想
- ・参加のお礼、次回案内



①福生水辺の楽校



②あきしま水辺の楽校



③かわさき水辺の楽校



④狛江水辺の楽校



⑤きぬたま遊び村



⑥うのき水辺の楽校



⑦だいし水辺の楽校



⑧羽田水辺の楽校

オンライン中継の様子（上段）

当日の各中継場所の風景（下段）

■ 参加者の感想：実施後アンケートより（一部を紹介。また内容を要約）

シンポジウムに参加してのご感想・ご意見

羽田水辺の楽校

いつもなら少しの憤りと残念な気持ちを持ってしまいがちな清掃活動も、アートワークの財力集めと考えると、大きなゴミも「良い材料みつけた！」と楽しみながらできた。また他の水辺の楽校は、思った以上に整備されていることに驚きながら、羽田水辺は、ゴミが1番多いと感じる一方、手付かずの自然も1番残っているのかもしれないと感じ、活動へのやりがいを再確認できた。

羽田水辺の楽校

自分たち以外のボランティアグループとの交流ができてよかった。いつか一同に集まっての情報交換をしたい。

学生スタッフ(羽田水辺の楽校)

8箇所の地点から中継をつないで、リアルタイムでどんなことをしているのかを知れたのが面白かった。地点ごとの色が出ていて、同じ川で生活する者同士認識することができる良い機会になったと思う。

参加者(東急財団)

コロナ禍での新たな取り組みの工夫として評価できる。

きぬたま遊び村

広い流域を歩き来せずとも、自分たちのフィールドに居ながらにしてつながれる良さを実感。それぞれの環境の特色と日常の活動の様子が伺えたことが何よりだった。

狛江水辺の楽校

かつてのように上下流・左右岸の楽校が一堂に会する機会が希薄になった現在、他の団体の様子がリアルタイムでわかり、たいへん励みになった。

福生水辺の楽校

他の水辺の楽校との情報交換や共有を図れる非常に良い機会。特に、コロナ禍においていかに子ども達に環境教育を推進するか、各団体がそれぞれ工夫されていることが分かり、嬉しさを感じると共に自身も発奮された。

学生スタッフ(あきしま水辺の楽校)

個人的には反省点が多くあったと感じたが、多摩川のいろんな団体と同時中継できたことにとても感動。ボートに乗れたこともとても楽しかった。

きぬたま遊び村

コロナが落ち着いたら、子どもたちとハゼ釣りに行きたい。

狛江水辺の楽校

かつては源流体験教室（小菅村）や河口干潟のガタガタ体験教室（殿町干潟）を企画運営していたが、歳とともに単独主催が難しくなった。大師や福生の協力を仰ぎ、子どもや親子の受け入れ支援ができるようなシステム・体制が再構築できたらと。

福生水辺の楽校

子ども達が参加している水辺の楽校の活動もぜひ紹介したい。他の水辺の楽校の活動楽しくみてみたい。（今回も、お子様が出演されている団体さんがあり、非常に楽しく拝見いたしました）

かわさき水辺の楽校

水辺の楽校を中心に、多摩川を楽しむ他の活動も探して、映像化できたら。アートで記した多摩川地図上の団体映像が良かった。

きぬたま遊び村

流域全体の活動を紹介するWebサイトづくり（流域マップ、活動紹介、カテゴライズ、団体リンク）

福生水辺の楽校

テーマをさらに絞って各流域の特色を紹介しあう（例えば、河川に住む生物の種類や自生している植物の種類、河川敷の岩石や泥の様子、またそれらの特徴を活かした水辺の楽校の活動、等）。コロナ収束後になるかと存じますが、他の水辺の楽校と実際に行き来する（バスツアー等）。

参加者（学生）

多摩川の流域全体で一つのアート作品を作るなど面白そうだなと思った。（例えば各エリアから、それぞれ石や葉っぱなど何か一つ持ち寄って、流域全体で1つの大きなアートを作るイメージ）

学生スタッフ(狛江水辺の楽校)

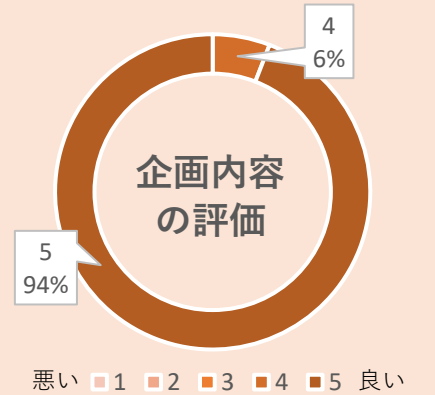
各場所で楽しく个性的に紹介してくれていて見ていて楽しかった。狛江では、ランドアート作りもアイディアがぱぱっと出来上がり、余裕を持って中継できた。個人的には、会の前にも水辺のことを色々教わることができとても楽しかった。

スタッフ（本部）

各地の活動の様子を垣間見ることができ、活動している人の顔が見え、さらに素敵な子供たちが水辺で成長していることを知り、とても楽しい・嬉しい気持ちになった。また、上流と下流での水辺の状況や活動内容が異なることも伝えてもえたことがよかった。

学生スタッフ(うのき水辺の楽校)

上流から下流までの団体が一堂に会するスケール感に圧倒。個別の水辺の楽校に参加するのとは見える景色が異なり、地域による魅力や特性の違い、それぞれの文化などをお互いに共有できることは大変有意義であったように感じた。



スタッフ(本部)

もう少し上流では、より環境や活動内容が異なると思う。その辺りを聞きたい。

参加者(学生)

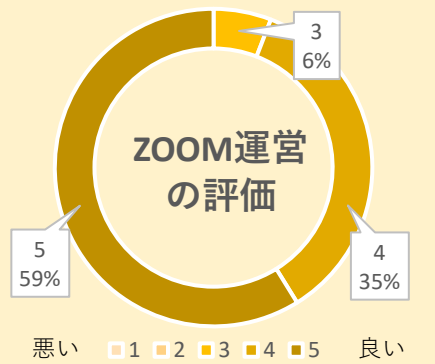
ほかの地域の水辺の楽校ではどんな遊びをしているのか気になる。

学生スタッフ(うのき水辺の楽校)

羽田エリアのアート作品が他とは一風変わっており、非常に興味深かった。人間が出すゴミも河川の景色を作る要素なのだという事を改めて認識した。

学生スタッフ(あきしま水辺の楽校)

昭島の方々に教えて頂きましたが、上流から下流まで一気にくだるボートレースを一度他の団体と協力してやってみたい。

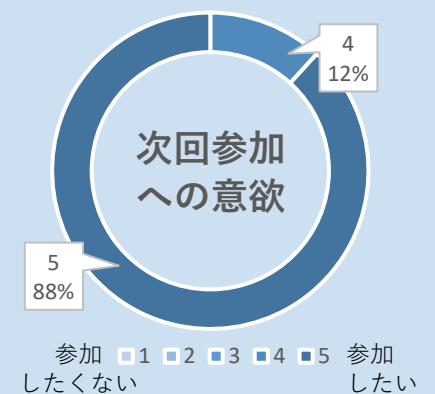


狛江水辺の楽校

「流域一斉、川流れリレー交流」「オリンピック前に多摩川を洗濯する一斉美化清掃」「在来種保全の一斉アレチウリ駆除大会」など、単独では当たり前の活動を流域全体で取り組むイベントができれば面白い

参加者（学生）所谷

川下り、サイクリングなど体を動かして流域を知れるアクティビティ。家から200mくらい先が多摩川と鶴見川の流域の堺になっている山の頂上なのですが、流域の堺の山から下りてきて、川に集まるようなこともできないかな、と考えていました



多摩川の流域単位でやってみたいこと

羽田水辺の楽校

生物(植物も)の一斉調査ができたらやってみたい。決まった時間で何がみつけれれるか、同時にやって結果を共有できたら面白い。

羽田水辺の楽校

他の活動場所と比べ、多摩川下流は整備が進んでいないことが判ったが、できれば自然のままの状態です子供たちが裸足になれるような状態として残したいと同僚と話し合っていた。

スタッフ（本部）

上流から下流に至るまで、水質と生き物（水中・河川敷）をみんな調査して、その違いを見てみたい。

■ アートワーク

(ホームページ上では、アートワークをクリックすると解説の動画再生)

福生水辺の楽校

「ユキヤナギの香りにさそわれて」
 昨年の活動でつくったクズのクリスマスリースとユキヤナギ。福生の豊かな自然と水辺の活動を春の訪れを香りと共にお届け

あきしま水辺の楽校

「あきしまくじら」
 ボートに乗っている風景をアートに。50年以上も前に発見されたクジラの化石は地域のシンボル。この風景を伝えていきたい

かわさき水辺の楽校

「多摩川石ころアート」
 多摩川沿いにある石を拾い集めてペイントした石ころアート。他の水辺からはカワイイ〜！と歓声を集めました！

きぬたま遊び村

「多摩川のかっぱ2021」
 カッパがテーマだと聞いてチョークで色んなカッパをお絵かき、石や泥でつくったカッパも！一緒に川遊び楽しみたいな〜

うのき水辺の楽校

「春の花のキャンプファイヤー」
 活動拠点周辺の春の草花、石、流れついたゴミをつかって作成。地域の憩いの場を舞台に、春をイメージしてつくった

羽田水辺の楽校

「欲望のなれのはて」
 干潟に流れ着いてきたゴミを使って作成した巨大アート作品！ホースにラジカセなど...他の水辺からは信じられない！との声も

だいし水辺の楽校

「リアル干潟感」
 干潟の様々なリアルを凝縮。チチブやゴカイ、カニ、そして彼らにとって大事な泥。ルアーに引っ掛かりケガをする鳥たちも

多摩川のいのち育む春
 春を彩る黄色の花に包まれるように真ん中にはおたまじゃくしの姿が。元気に泳いでいます！水路の復活と春の訪れを表現

「作品タイトル」
 アートワーク作品の紹介と作品に込めたメッセージ

■ 現地インタビュー

(ホームページ上では、現地中継の風景をクリックすると動画再生)

福生水辺の楽校



食に関わるイベントができないことは残念ですが、例年よりも多くの関心が水辺に寄せられ、新たなリピーターもできました。自然を愛し仲間と協力して助け合う心を水辺の活動を通して学んでほしいです。

あきしま水辺の楽校



自然環境の回復してきた多摩川で、水や緑を感じながら、いい大人になってほしい。夏には家族で遊びながら活動もできるように、コロナが収束することを願っています。

かわさき水辺の楽校



コロナの影響で、活動への参加者を限定し少人数で実施。普段よりも少ない人数のため、より中身の濃い活動ができました。身近で貴重な多摩川の自然を体感して、日頃から親しんでほしいと思います。

狛江水辺の楽校



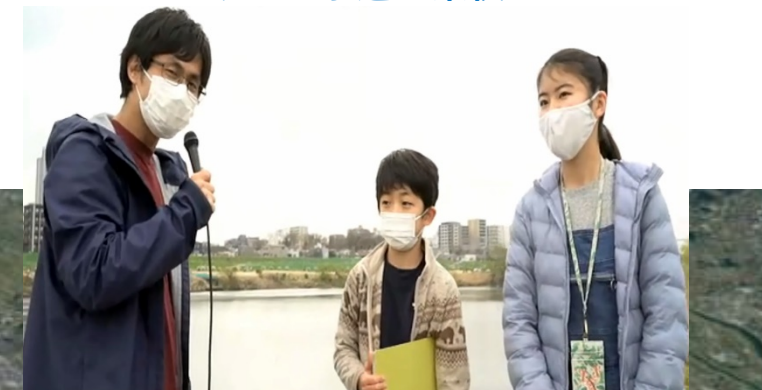
台風の影響で枯れていた湧き水が復活！地域住民と一緒にくい打ちをしてつくった水路も完成！カエルたちも戻ってきました。開校20周年を迎えるべ6万5千人の子どもが狛江水辺に！

きぬたま遊び村



子どものうちに、川沿いでたくさん遊んでほしい。自然環境と触れ合う楽しさや怖さを伝えてくれる多摩川を、未来の子どもたちが大切にできる関係性であってほしい。

うのき水辺の楽校



子どもスタッフの二人から子どもスタッフ研修の活動や町会との関係、そして多摩川のハゼやアオサギの生態について詳しく報告。未来の子どもたちが安心して元気に遊ぶことが出来る豊かなきれいな多摩川していきたいです！

羽田水辺の楽校



今はゴミだらけの太子橋干潟も、みんなで力を合わせれば、きっと生き物がいっぱい集まる環境を取り戻せるはず！子どもたちが裸足になって干潟で遊べる環境を作っていききたい！

だいし水辺の楽校



感染予防のために実施した青空教室や家族単位での参加方法は、アットホームな雰囲気を活動にもたらしてくれたことは新しい発見でした。未来の子どもたちよ！干潟にきて泥だらけになっていっぱい勉強するんだ！

各インタビュー内容
最近の活動の様子、子どもたちの様子、
地域との関係の変化、未来の子どもたちへのメッセージ